

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前：有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2025年5月16日実施】

2024年度自己点検自己評価(2024年4月1日～2025年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
育 成 人 材 像 目 的 的 育 成 理 念	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	学校運営にあたり、最も大切にしていることは「滋慶学園グループのミッションと理念」である。これを基に、各校ごと事業計画を作成し、組織目的、運営方針、実行計画を示している。 育成人材像については、各学科ごとに「養成目的」「教育目標」を定めている。カリキュラムについては年2回の教育課程編成委員会を開催し、業界の意見やニーズも踏まえて作成している。 「職業人教育を通じて社会に貢献する」というミッションの元、本校では産学共同研究で新しい商品開発に取り組み、これまでも多くの商品化に成功している。教育を通じて社会貢献に取り組むことで学生にもよい影響を与えている。 2024年度は自由選択科目等を導入し教育のイノベーションを図った。今後も社会の変化を見据えて新しい学びを創造していきたい。	■建学の理念 実学教育 人間教育 国際教育 ■滋慶学園グループのミッション 職業人教育を通じて社会に貢献する ■教育課程編成委員会 2024年5月17日 11月15日 実施 ■産学協同研究(2024年度) ・(株)大島とANAあきんど(株)その産学連携で山形県のだだちや豆を使用したクラフトビール「だだちや豆エール」が商品化されました。	3.0	■全国に約80校を展開している滋慶学園は、組織として「職業人教育を通して社会に貢献する」ことを大きな目標にしています。 その為に実学教育・人間教育・国際教育を教育の理念に掲げて、さらに学生・保護者からの信頼、産業界からの信頼、高等学校からの信頼、地域からの信頼、を得て学校は発展するとの理念には共感もてます。 ■実験・実習を通して、学生の主体的取組や態度を育成されて社会に有意な人材を輩出されています。今後とも建学の精神に基づき、勤労性と誠実性を持った社会人を供給できる学校であって欲しいです。 ■産学協同研究で製品化された事は、学生にとってもやり甲斐を感じる良い経験が出来たと感じました。 ■理念、目的が明確で分かりやすく、若年層が減少している中で、2025年度は目標達成率115%の入学者数は優れた実績である。	
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか						
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか						
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか						
2 学 校 運 営	2-2 運営方針は定められているか	3	毎年見直しをするが、5か年の中長期を見据えて定められている。	■2024年度運営方針 「産学連携教育と就職実績」で大学には負けない絶対の自信のもてる「誇りに思える学校」を目指す。	3.0	■全国に約2721校ある専門学校の中で、文部科学省から職業実践専門課程を有する学校は全体の40%しかなく、滋慶学園グループの90%が職業実践専門課程を習得していることは、学校運営が的確になされている証ですから、このことを見ても高く評価されるべきだと思います。 学校法人ですら全体の運営方針は理事長をはじめとする理事会・評議会、各委員会等の会議及び打ち合わせで確認され、その計画も長期計画・中期計画と内容を考えながら進められていることは他の学校も見習うべき運営方針だと思います。 今後は教育人材の確保のため・教職員の質の向上のために教職員の待遇改善をはかり、有能な人材を集める組織努力も必要となる時代だと思います。 ■学校運営・経営は先の見通しを明確にされて、頼もしい限りです。 人口減少社会に抗いながら、経営目標を定めて組織的に実践して欲しいです。 ■滋慶学園グループの方針に沿って、事業計画も立てられており、職員の方々のモチベーションが保たれるよう工夫されていると感じます。 ■具体的な事業計画の元、各種人事制度や情報システムが推進されていることが良くわかった。滋慶学園のパンフレットはよくできていると思う。この内容をすべてHPで拝見出来るかと学園全体の状況、内容がよくわかり、学生や家族、さらに今後応募予定の学生に大きなインパクトがあると思う。 ■2-2-5については、物価上昇、他の学校との比較の中で、良い指導者を確保するための努力をお願いします。	
	2-3 事業計画は定められているか	3	本校の事業計画は、滋慶学園グループの方向性に基づき事務局長を中心に作成し、常務理事の決済を受けて実行に移している。事業計画の項目については右記の通りである。	■事業計画の構成 ①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的) ②運営方針(中期的に組織として目指していく方針) ③実行方針(中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針) ④定章目標 入学生獲得、教育成果(中途退学防止・資格取得数・就職率)等 ⑤定性目標(組織のあり方等定性的な目標) ⑥実行計画(その方針を実現するための詳細な計画) ⑦組織図(単年度) ⑧職務分掌 ⑨部署ごとの計画及びスケジュール ⑩職員の業績評価システム ⑪意思決定システム ⑫収支予算書(5か年計画) など			
	2-4-1 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3	組織図、意思決定のルール、会議(日程と目的)を定めており、運営体制は事業計画で定めている。	特記事項なし			
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか						
	2-5 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3	採用計画、人材育成計画は事業計画で定めている。 昇任・昇給(昇進昇格)に関しては、目標管理制度に基づき滋慶EAST戦略会議にて決定している。	■給料 ・基本給(基礎給＋職階給) ・手当(管理監督者給、役職給、夜間手当、OJTトレーナー手当、調整手当、別居手当) ■目標管理制度 学校目標2項目とチーム目標3項目及び情意効果の達成度合いによる			
	2-6 意思決定システムは確立されているか	3	拡大運営協議会、滋慶EAST戦略会議、エリア会議を経て、学校の運営会議で意思決定を行い、全体会で職員全体に周知している。	特記事項なし			
	2-7 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	滋慶学園のサポート企業にBSCという企業があり、独自の管理システムを構築している。 特に学生情報については「入学前～在籍中～卒業」で一貫した情報管理を行っている。学生の様々な支援(進路決定、就職支援、学費相談等)の際に、その情報を活かし、適切な助言ができる。	■各種情報管理システム ①学籍簿管理 ②成績・出席管理 ③学費管理 ④入学希望者及び入学者管理 ⑤各種証明書管理 ⑥求人企業管理 ⑦就職管理 ⑧卒業生管理 ⑨学校会計システム ⑩勤怠システム ⑪現金精算システム 等			

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前：有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2025年5月16日実施】

2024年度自己点検自己評価(2024年4月1日～2025年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	各学科、コースごとに養成目的(育成人材像)、教育目標(卒業時に出来るようになっていること)を定めている。学年目標も前期、後期に分けて定めており、担任授業で確認している。	学生便覧に記載	3.0	■学生の学力や理解力を考えた、教育目標の達成のために教師のクラスマネージメント研修を年間2回・講師には年間4回の研修を義務化するなど、教える側の質の向上を目指す活動は高く評価できます。 ■生徒のニーズに応じてきめ細やかな体制でキャリア教育を実践されています。上場一部企業に志望する学生も育成してほしい。 ■目的意識の醸成と共に人間力強化を目的としたキャリア教育は、素晴らしいです。 ■大中小の企業とのインターンシップについて良い実績を残していると思える。今以上にタイアップをお願いしたい。 ■考えさせる教育も必要と感じました。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	1年間に2回の教育課程編成委員会を開催し、業界関係者からご助言、ご指導いただき教育内容に反映している。また、業界の方を招いての勉強会に加え、業界団体に加盟することで学会等への参加も行っている。	特記事項なし		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3	キャリア教育は、入学時からフロー教育を軸に段階的に実施している。1年次は導入教育(人間力醸成)からスタートし、卒年次はインターンシップや産学連携による卒業研究に移行している。	入学時から行う導入教育において、目的意識の醸成と共に人間力強化を目的としたキャリア教育のフロープログラムを再構築した。		
	3-9-4 授業評価を実施しているか	2	各授業終了時に授業アンケートを実施している。講師へのフィードバックが不足しており、課題となっている。	アンケート内容は下記の4項目を5段階で評価し、に自由意見を加えた形式としている。 ①板書は読みやすい ②話は聞き取りやすい ③授業は理解できる(分かりやすい) ④授業は興味もてる(おもしろい)		
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則はもとより、「教育指導要領」及び「学生便覧」にしっかりと明記し、職員や講師、学生に周知している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。2010年の学則より教科課程に単位制・GPAを取り入れている。	授業履修時間も含めて、基準の遵守は徹底している。卒業・進級判定会議を開催し学校長の承認を経ている。レポートなどの評価の観点を明確にし、講師と共有していく。		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	各コースの取得目標資格は学生便覧に記載してある。資格取得のサポートは、授業に加え直前対策講座・特別対策講座を実施することでほぼ全ての資格に対して対策ができている。 さらにTeamsを活用し、オンデマンド動画や問題演習を実施している。 不合格者に対するフォローが十分ではなく、課題となっている。	特記事項なし		
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	学科の育成目標を達成するために、講師がその分野のスペシャリストであることを採用条件のひとつとしている。 講師とは、定期的な講師会議や科目連絡会を通して、授業運営に対する情報の共有化、成功事例の共有、また、学校運営上の方向性、養成したい学生像を共有し、問題・情報の共有、解決につなげている。	産学連携企業のネットワークや各種業界団体、同窓会ネットワークをいかし、交流を図っている。また、その情報から卒業生講師や外部講師を採用している。		
	3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか					
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか					

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前：有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2025年5月16日実施】

2024年度自己点検自己評価(2024年4月1日～2025年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
4 教育成果	4-13 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	養成コースごとの月別内定数をシミュレーションし、目標値としている。 内定状況は毎月末日に確認し、検証改善を行っている。 就職関連の行事は何回数行っており、企業説明会をはじめ、企業との連携を図っている。 月末の数字データは学園グループで集約し、これを管理している。学校単体の経年データは学内のPUBIに保管している。	■2025年3月末の実績 就職希望者92名 内定91名(内定率98%) ※内定100%は2025年4月17日に実現	3.0	■羽田空港や大阪万国博覧会で産学連携の教育成果としてオリジナルの“酒類”製造と販売は素晴らしい実績だと高く評価します。 同時に大学院に3名が進んだことも大いに評価の好材料です。 ■キャリア教育の充実で、多様な進路志望・選択ができる指導体制の整備をしてほしい。 ■就職内定100%は、就職目的なら素晴らしい事です。 また、卒業生の就職先で活躍も把握されており、学生募集に活用されていると思います。 ■3年制も4年制も昨年度より高くなり、5%近いのは大きな課題と考える。カウンセリングの充実が重要で、生徒が相談しやすい外部の業者も適宜利用することももう一つの方策と考える。特に休学中の学生に対しては本院を追い詰めるようなことがないよう、学校側、保護者、さらには外部業者等の密な連携でカバーしていくことが重要である。 ■卒業者の動向は大切だと思います。
	4-14 資格取得率の向上が図られているか	3	授業内及び授業外での受験対策講座を実施し合格率の向上に努めている。	「実験動物1級技術者認定試験」(等1)「学校初級」「細胞培養工コース」は、専門的な技術を取得できる資格として、学生のモチベーションを高める資格の一つとなっている。 中級バイオ+化学分析技能士3級の合格率は、2023年度71%であったが2024年度は77%に上がった。		
	4-15 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	開校35年が経ち卒業生の就職先も多岐に渡っている。現在も多くの就職先と相互の訪問や情報交換、また求人を買うなど深い関係性を保っている。 また、業界・学会での受賞者や新製品開発に関わるなど卒業生の活躍を把握している。	卒業生の取材や動画撮影を強化し、学生募集、教育に活用している。		
5 学生支援	5-16 就職に関する体制は整備されているか	3	教務とキャリアの情報交換は毎日朝礼後に実施している。学生全体に対する説明会は就職年次の1年前から実施している。企業による学内説明会も実施している。	11月 就職スタート式(決起大会・業界模擬面接会) 2月・3月 学内説明会以降は個別活動	2.8	■退学者の減少を考え、新入生の授業内容を基礎重視に切り替えるなどの工夫は高く評価が出来ます。またWebやSNS・LINEを活用した活動は、他校の見本となる取り組みだと、これも評価の材料です。 ■貴校でしか取得が難しい「実験動物1級」の資格を目指して学生が挑戦し続ける雰囲気継続して作っていく姿勢は素晴らしいです。 ■精神面での問題を抱える学生に対するケアは、大変だと思います。根気よくケア継続してあげてください。 ■現在のところは授業や実習を円滑に勧められる環境と思われる。但し、今後さらに入学者数が増加しそうな場合は、校舎や実験設備の改修、真相が重要な課題となると思う。 ■学生のケアは大切です。
	5-17 退学者の低減が図られているか	2	学生の状況を学生アンケート(GSA)や日常のアプローチを通して、早期の問題発見を行い、全員で情報共有し、対策を立て対応している。学生の抱える固有の問題(精神疾患や発達に関する事案)にも個別に対応し、退学者を抑える取り組みをしている。入学生が多様化する中、担任個々の力だけでなく、クラスマネジメント、セーフティシステムの強化が必要である。	■2024年度退学者数(率) 総在校生395名 退学者19名(4.9%) ※2023年度4.0%		
	5-18-1 学生相談に関する体制は整備されているか	3	学生相談室を設置し、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制は既に整備されている。	教職員全員が、カウンセリング研修に参加、学園独自のカウンセリング資格を取得している。 精神面での問題を抱える学生が増加しており、カウンセリングの設置回数を見直したい。		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	在籍管理等については学生サービスセンター、就職支援についてはキャリアセンター中心に行っている。	特記事項なし		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	学生の経済的側面の支援は、学生サービスセンターを中心に入学前から事前に学費相談を受けられ、資金のやり繰りするためのアドバイスできている。	特待生制度(実技試験／筆記試験)がある。		
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3	「慶生会クリニック」や「滋慶トータルサポートセンター」が学生の精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されているが、葛西地区にあるため、利用率は高くない。	学内にて健康診断を実施している。		
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	2	学校単体の学生寮は近隣にはない(葛西地区には多くの学生寮がある)	特記事項なし		
	5-19-4 課外活動に対する支援体制は整備されているか	2	職業教育が主旨である専門学校なのでクラブ活動のようなものはないが、学生募集を行う際の学生スタッフについては外部研修など実施している。	特記事項なし		
	5-20 保護者との連携体制を構築しているか	3	保護者会はオンデマンドで実施し、都合のつかない保護者や遠方の保護者でも参加できるようにしている。課題のある学生の保護者には連絡を密にとっており、必要があれば来校いただき面談を実施している。	特記事項なし		
	5-21-1 卒業生への支援体制はあるか	3	同窓会は組織化されており、会長副会長との情報共有も行っている。卒業の就職支援は個別に対応している。 卒業の再教育については、あまり取り組んでいない。資格不合格者が、在校生向けの対策授業に入ることはある。	卒業教育については、社会人講座とも連携させて今後進めていく。		
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	細胞培養学会と共同して「細胞培養士」、実験動物学会と共同して「実験動物1級」、また、国家検定として「化学分析技能士」を実施している。 卒業研究においては、すべてのグループが産学協同となったが、卒業後の産学連携については今後検討していく。	特記事項なし		
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	大学からの編入学も毎年数名いるため、単位互換等の仕組みは活用されている。長期履修も毎年数名利用している。	特記事項なし		

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前：有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2025年5月16日実施】

2024年度自己点検自己評価(2024年4月1日～2025年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
6 教育環境	6-22 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	2	実習室は実際の現場で使われている設備を揃えているが、校舎と共に老朽化が進んでおり、実習機器も修理しながら使用している。	長期展望としては、改装、校舎移転ともに検討していく。	3.0	■学校設置されている環境が心配です。 大規模な火災や心配されている関東直下型の巨大地震が発生した場合の、一時的な避難を要するグラウンドや近隣に避難できる公園が少なすぎ、同時に町工場が密集していますから、延焼や倒壊の不安がのこります。移転の計画があるようですから早めの計画実行が望まれます。 ■生徒の活躍できる場を継続・開拓しておられる学校の姿勢は称賛に値する。 ■実習器具のメンテナンスは、定期的に必要です。 有事対策は大事だと思います。 最近起こった災害で困った事の情報を入手し、避難訓練は継続して頂きたい。 ■課題は誇るが検討しているので3とした。 ■海外研修の費用が少し安くなると多くの学生の参加が可能になると思います。
	6-23 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	学外実習・インターンシップ・海外研修を行うことで、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。	■主なインターンシップ先 ・国立がん研究センター研究所 ・国立成育医療センター研究所 ・理化学研究所 ・東京大学医化学研究所 等 ■2024年度海外研修:オーストラリア研修19名参加		
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	コロナ禍から避難訓練は実施できていないが、毎年避難場所の確認、防災に関する映像での視聴を行っている。また防犯対策としてセキュリティのかかる扉の設置、実習中や学校生活で起こりうる自己、応急処置法について職員研修実施とマニュアルを作成している。	2024年度、津波からの避難訓練については、非常勤講師にも参加して頂いて実施した。		
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか					
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	3	各高等学校での進路ガイダンスに積極的に参加するとともに、出張授業の依頼に対応、科目における実習授業を担当し、継続的な圏形成の構築を図っている。	オンライン上での顧客育成(ナーチャリング)を行い、バイオ分野への進学や東京バイオでの学校生活に期待感を持てる取り組みを行うとともに、入学検討段階から入学確定までの連絡手段としてLmy(公式LINE)の活用を継続強化した。また早期での出願者に対して、入学に向けたモチベーションを維持、継続できるようプレカレッジ(入学前教育)を実施している。	2.8	■18歳人口の急激な減少の中で、募集定員を確保できていることが、募集が的確に行われて、しかも効果的だと証明しています。 入学選考基準・また学納金や諸費用に関しても他校との比較をする、受験者や学校関係者から見て適正で公平だと信頼の証だと思います。 ■目的・目標を明確にして貴校を選ぶ学生を入学させて、自治のある体制にスケールアップしてほしい。 ■特にありません。 ■大項目1にも記載したが、入学者数が目標を大きく上回っており、素晴らしい実績である。上記大項目6に関連し、学校としての最大限の学生数を基に学生薄酒を進めていただきたい。 ■大学ではない学びが出来る学校として発信して欲しい。学科のバランスは見直しが必要。 ■情報管理の重要性を感じました。
	7-25-2 学生募集活動は、適正に行われているか	3	東京都専修学校各種学校協会の定めているルールと学則に則り、募集活動を行っている。また入学案内と募集要項は最新の情報に作成しなおし、受験検討者に送付している。			
	7-26-1 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。選考日ごとに選考会議を実施し公平に評価している。 (事務局長、教務部長、広報センター長、学生サービスセンター長)	■入学選考 ・AO入試 ・高校推薦入試 ・指定校推薦入試 ・自己推薦入試 ・一般入試 入学選考の基準は、目指す仕事に対する「目的意識」と「適正」を基準としている。		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	学納金は適正かつ妥当なものと考えている。 また、HP上には財務の情報公開も行っている。 入学辞退後の返金については、募集要項にも記載している通り、入学金と諸費用を除く金額で返金している。	募集要項において、事前に年間必要金額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。 また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたつてのアドバイスを実施している。詳細はHP		
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか					

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前：有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2025年5月16日実施】

2024年度自己点検自己評価(2024年4月1日～2025年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
8 財 務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	事業計画の5か年計画に基づき、中長期的に収支計画を作成し、右記のような中間チェックを、修正を行いながら財務基盤を安定させている。	■事業計画(財務計画・収支予算書)の中間チェック 1. 学園本部によるチェックと理事会・評議員会による承認 2. 四半期ごとの学園本部によるチェック 3. 修正予算の作成:学園本部によるチェックと理事会・評議員会による承認 4. 計算書類の作成と学園本部によるチェック 5. 監事および公認会計士による監査 6. 決算書類、事業報告書の理事会・評議員会による承認 ※内部監査を設置し、第三者視点で厳しくみている。	3.0	■財務体制の基盤は安定した学生募集と的確な組織運営だと思っています。 滋慶学園全体として、他の専門学校が学生募集で苦戦し閉校・撤退の動きがある中で健全経営が出来ていることにまず高い評価ができます。 法人本部の役員・担当者の総括能力と長期計画・中期計画が世の中の動きの変化に対応出来ている証です。 計画に沿って予算を計上して適切に管理運営されています。 ■専門性の高い学校運営で差別化して盤石な経営体制になられることを祈念しています。 ■特にありません。 ■HPでオープンにしているのは透明性を担保しており、適切に運用されていることが分かる。 (但し、HP上での財務公開内容が確認できなかった)
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか					
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	在校生の推移見込みも5か年計画で作成している。その際、入学目標と退学目標も掲げ、在校生が減少しないよう(授業料収入が減少しないよう)に計画している。			
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか					
	8-30 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	監査は適切に実施している。	監査に関しては、会計監査のみならず、業務監査など近年企業にもとめられている内部監査と同様に実施し、業務内容のチェックを行っている。 詳細はHP		
8-31 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	HP上に情報公開している。	4年制学科は職業実践専門課程に認定されており、その規定ののっとり、学校の内容をHP上に公開している。			
9 法 令 等 の 遵 守	9-32 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	学園本部の総務センターと各校が連携し、法令や設置基準の遵守に対応している。 また、実務担当者には、法令や設置基準を遵守に対する教育または研修を実施している。	行政への報告や提出書類は、本部の総務センターのチェックを受けている。また、学園内部の監査も定期的に受けており、適正な学校運営を目指している。 参考資料 ■学校法人東京滋慶学園 個人情報保護基本規定 ■物理的安全管理措置及び情報システムからの漏えい等の防止のための技術的安全監視措置について	3.0	■学校運営は設置基準を厳守しながら、さらにコンプライアンス委員会を設置して組織全体で法令の遵守・高い倫理観を求めている点が高く評価できます。 また個人情報の保護管理についても、組織をあげての取り組みが「一般社団法人日本プライバシー認証機構」から全教職員が認定証を取得できていると評価します。 ■職員の皆様方の内部・外部への対応を見ると対人関係形成能力の高さを感じる。 今後もこの体制・雰囲気が継続されることを期待します。 ■学生が社会と接する事は、企業はもちろん、ボランティア活動も貴重な経験なと思います。 コミュニケーション力の養成にもなると 생각합니다。 ■きっちりとした自己評価体制が出来ており、特に問題点はない。
	9-33 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	学園として「個人情報保護基本規程」を定めており、すべての役員・教職員・講師が個人情報に関する法規範を遵守する体制を構築している。 また、学校は大量の個人情報を扱っているため、その管理においては外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての研修を受けている。			
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	私立専門学校等評価研究機構の基準に準じて自己点検・自己評価、学校関係者評価委員会を実施しており、結果をホームページ上で公表している。			
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか					
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか					
	9-35 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	教育情報はホームページを中心に公開している。	※詳細はHP		

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前：有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2025年5月16日実施】

2024年度自己点検自己評価(2024年4月1日～2025年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	生涯学習講座は実施できていないが、社会人講座及びその開催に向けた社会人セミナーを実施している。現状は醸造ものしかできておらず、他の資源(化粧品や香料など)も新たな社会人講座として検討している。産学共同研究で商品開発に取り組んでいる。 地元の小学校で理科講座を開講し地域貢献に取り組んだ。	■2024年度産学共同研究による商品化・だだちや豆エール(クラフトビール) ■社会人講座 ワイン醸造プログラム(受講者4名) クラフトビールプログラム(受講者10名)	2.5	■母校での実験や実習が出来るように、学校関係者に働きかけをさらに進めるべきだと思います。 ■地域の社会人・大学生・高校生・中学生・小学生が集うプラットフォームとなると良いと感じます。 ■学生が社会と接する事は、企業はもちろん、ボランティア活動も貴重な経験なと思います。 コミュニケーション力の養成にもなると思います。 ■左記のような産学連携研究やワイン醸造等を実施し、学生のモチベーションを高めるプログラムを展開したい。
	10-37 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2	学生の積極的なボランティア活動への参加はないが、参加希望が出た際は支援していきたいと考えている。 社会人向けのワイン講座では、醸造コースの学生がサポートに入った。こうした活動もボランティア活動と捉えても良いのではないかと。	特記事項なし		
11 国際交流	11-38 国際交流に取り組んでいるか	3	コロナ禍で中止になってきた海外研修が4年ぶりに再開した。安全面と費用面を考慮してオーストラリアでの研修となった。参加した学生の満足度は高かった。 2025年度は醸造、食品、化粧品については従来通りフランスでの実施を計画している。	オーストラリア研修(2025年2月10日～16日) 海外研修費:622,000円 参加学生:19名 医薬品開発プログラム / 化粧品開発プログラム	2.5	■コロナが明けてオーストラリアへの研修が行われ、今年はフランスへの計画もあるようです。ただ私の勤務する高校生(女子)は韓国への希望が非常に多いようです。それは化粧品の多さ・手軽な値段設定が女子高生の間で広まっているようです。この世代が次の年の受験者に成ることもお考えください。 ■オーストラリア研修は学生の人間性や知識の幅を広げると 생각합니다。今後も継続してほしい。 ■海外研修は全ての事で良い経験になるとしますので継続してください。 ■オーストラリアやフランスだけでなく、アジア(マレーシア、シンガポールなど)も対象となるともっと多くの学生が年齢交流を体験できると思う。